

給油式直結エアークンプレッサー

# AIR WAVE

KTR-25

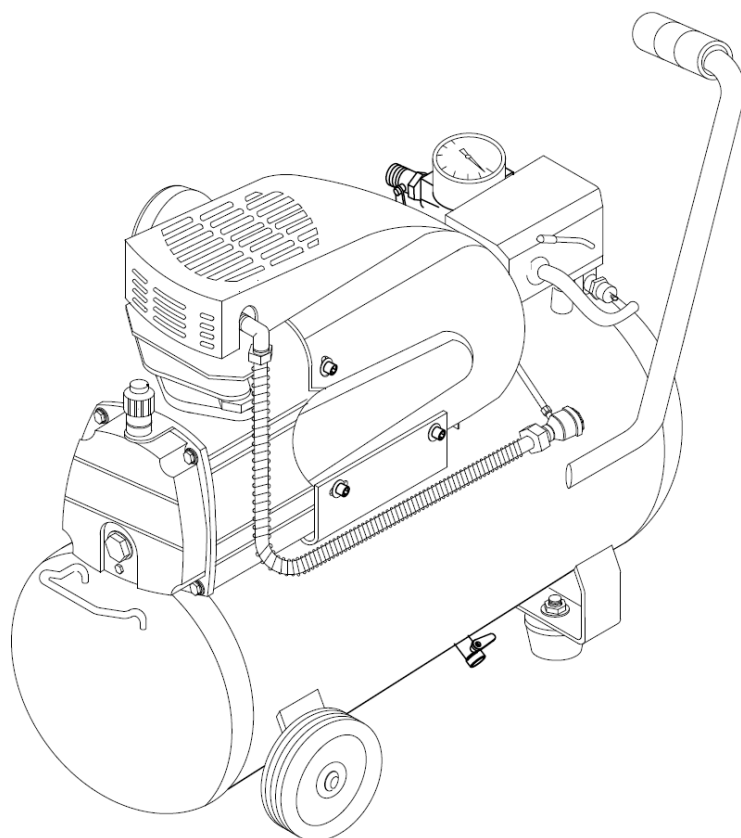
## 取扱説明書

この度は、弊社給油式直結エアークンプレッサー『AIR WAVE』をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。ご使用前には、必ず取扱説明書を充分お読みください。

お読みになった後は、目の届く場所に保管し、次にお使いの方がいつでも見られるようにしてください。

尚、本品を譲渡、又は貸出しする際は本取扱い説明書を必ず添付し、譲受(借手)の方は、必読し十分に理解されてからご使用ください。

ご不明の点がある場合は、お買い上げの販売店または弊社にお問い合わせください。



KAZ  
株式会社 **和** コーポレーション

# 目 次

安全上のご注意 .....	1
絵文字表示の内容 .....	1
1. ご使用上の注意事項 .....	2
2. お願い .....	2
3. 用途 .....	2
4. 警告 .....	2
5. 仕様 .....	3
6. 付属品 .....	3
7. 各部名称 .....	3
8. 設置・保管場所 .....	4
9. 運転前の準備 .....	4
10. 運 転 .....	4
11. 保守と点検 .....	5
12. トラブルの原因と対策 .....	6
メンテナンス記録 .....	6
13. 保 証 .....	7

## 安全上のご注意

(取扱説明書に従い安全にご使用ください)

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、下記の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 <b>警告</b>	誤った取扱いにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 <b>注意</b>	誤った取扱いにより、傷害を負う可能性、又は物的損害の可能性のあるものなどの重大な結果に結び付く可能性があるもの。
--	--	--	--

- 本文中で使用される“絵表示”の意味は次の通りです。(機種により使用しない“絵表示”あり)

 <b>危険</b>	運転中は駆動部に注意、可燃物注意		指示を守る		禁止
	電源プラグを抜く		アース線接続		機械の水ぬれ禁止
	取扱説明書をよく読んでください	 火気禁止	可燃物のそばで使用しないでください		ぬれ手で接触禁止
	作動部品に手や指を挟まないよう十分ご注意ください		移動及び操作時に手をはさまないように注意してください		子ども、動物などは本体に近づけないでください

## 1. ご使用上の注意事項

- ① ご使用になる前に安全上の注意事項をよくお読みになり、本機を正しくお使いください。
- ② 本書に記載された注意事項を守らないと、人身事故や機械の破損等に繋がる恐れがありますので必ず注意事項を守るようにしてください。

## 2. お願い

- ① 商品の運送途上の衝撃等により、商品が破損したり、取付部品が外れたり、曲がったりする場合がありますので、ご使用前に必ず確認して不具合が見つかりましたら、直ちに弊社、または運送会社にご連絡をお願い致します。
- ② 必ず正規の状態でご使用くださいます様お願い致します。
- ③ ご使用前には、本体各部のネジ類がしっかり締め付けられているか確認してください。
- ④ 運転中、機械の調子が悪いと感じたり、異常に気付いた時には、直ちに使用を中止し、弊社、またはご購入販売店にご連絡ください。
- ⑤ 整備点検、部品交換の際は、必ず電源スイッチを OFF にして電源コードはコンセントから抜いてください。
- ⑥ 製品は大事に扱ってください。誤って落としたり、ぶついたりした場合は、異常の有無を確認してください。
- ⑦ 連続使用可能時間は 30 分です。モーターに損傷を起こす恐れがありますので 30 分使用後はしばらく作業を停止してください。
- ⑧ 運転中は可動部には手を触れないでください。大変、危険です。
- ⑨ 揮発性可燃物(シンナー、ガソリン等)の近くでは絶対に使用しないでください。
- ⑩ 能力を超えた作業は事故の原因となります。また、著しく耐久性を低下させる場合がございますので、ご注意ください。
- ⑪ 作業の能率や安全のために、使用説明に従って、各部品がしっかりと取り付けられているか確認してください。
- ⑫ 安全な作業をするためには、作業場所は常にきれいに整理をし、十分な採光が必要です。散乱した作業場所は事故の原因となります。
- ⑬ エアー工具類は使用後、本機からすぐに取り外すようにしてください。
- ⑭ 作業には保護めがね・耳栓・マスクなどを着用してください。

## 3. 用途

圧縮空気を動力源とする各種エアーツールがありますので、作業に応じてエアーツールをお選びください。

- ① DIY 塗装用として小型工作物・プラモデル・革製品等の塗装に最適です。
- ② エアー充填用としてタイヤ空気入れ・浮き輪・マット・ボール・風船にもご使用いただけます。
- ③ 農機具、車のメンテナンスとして機械器具の清掃・ホコリ払いやインパクトレンチを接続してネジの脱着などにもご使用いただけます。

## 4. 警告

- ① 単相 AC100V 以外の電圧では使用しないでください。
- ② 発電機の出力電源をコンプレッサー電源としてご使用は厳禁です。機器故障につながります。
- ③ 揮発性可燃物(シンナー・ガソリン等)の傍では絶対に使用しないでください。
- ④ 圧縮空気には、ごみ等の不純物や油分が含まれていますので、人への医療行為やペット・水槽への送気など絶対にしないでください。
- ⑤ 本機運転中や停止直後は、シリンダ部分や導入管など高温になり、ヤケドの恐れがありますので、冷めるまでは絶対に触れないでください。
- ⑥ 圧縮空気は水分を含みますので、本機運転するとタンク内に水が溜まります。使用後はドレンコックを開き、必ずタンク内の水分を抜いてください。
- ⑦ 安全弁からのエアー抜きは禁止です。0.8MPa 溜まる前に安全弁が働く等の誤作動故障の原因になります。
- ⑧ 防滴・防水仕様ではありません。水のかかる場所や多湿となる場所で使用しないでください。

## 5. 仕様

型式	KTR-25		
電源	AC100V 50/60Hz	消費電力	1,100W
最高使用圧力	0.8MPa	再起動圧力	0.6MPa
安全弁設定圧力	0.9MPa	カプラー接続口	Rc1/4 エアークック付
吐出量(計算値)	147(50Hz)/178L(60Hz)/min	本体寸法	約 620 × 320 × 560mm
タンク容量	25L	コード長さ	約 2m
重量	24kg	騒音	97dBA

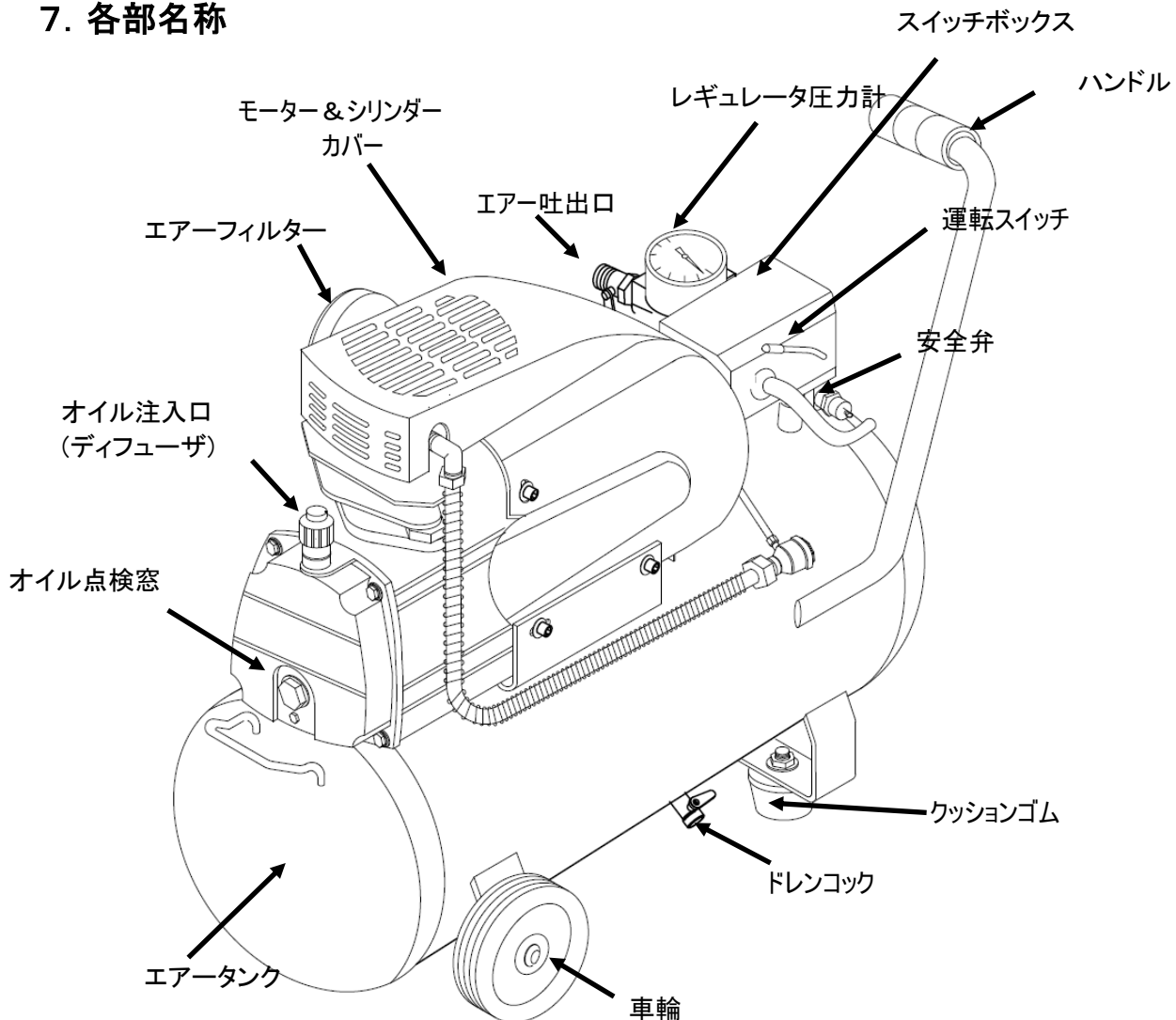
※ 改良のため、製品の外観・仕様・写真等が変わる場合があります。

## 6. 付属品

- ① コンプレッサーオイル:1 回分
- ② エアークック:1 ケ
- ③ エアークラ:1 ケ
- ④ エアークル防止用シールテープ:1 ケ
- ⑤ オイル注入プラグ(ディフューザ):1 ケ

※オイルを入れた後にオイル注入プラグと交換してください。

## 7. 各部名称



## 8. 設置・保管場所



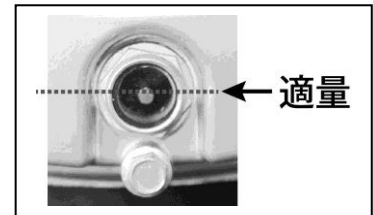
### 注 意

- ・本機は、お子様が容易に触れられない所に保管し、湿度の高い所、雨のかかる所、直射日光のあたる所は避け、チリ・ホコリが少なく風通しが良い場所を選んでください。
- ・点検し易いよう、壁から 30cm 以上離して平らな場所を選んでください。
- ・室温は 40°Cを超えないようにしてください。
- ・清浄な空気が吸入できる場所を選んでください。チリ・ホコリの多い所では、フィルターの目詰まりにより空気量の低下やシリンダ、ピストンを傷つけ、性能が落ちる事があります。

## 9. 運転前の準備

### ① オイル注入とオイル注入プラグ(ディフューザ)取替え

本機は、出荷前点検後にコンプレッサオイルを抜いて出荷していますので、ご使用前に必ず付属のコンプレッサオイルを注入してください。オイルレベルゲージでオイル量を確認してください。



オイルレベルゲージ

また、現在取付けてあるキャップは輸送用のものであり、オイル注入後、付属のオイル注入プラグ(ディフューザ)に取替えてください。

### ② エアフィルター

エアフィルターを時計方向に回して締め込みます。

### ③ エアカップラ

本機の吐出口ネジ部(オスネジ)に付属のエア漏れ防止用シールテープを巻き、付属のエアカップラ(メスネジ)を締め込みます。



### 注 意

タンク内圧力 0.8MPa で圧力スイッチが働かずに圧力が上がっても、0.9~1.0MPa で安全弁が作動し、タンク内圧力を下げる構造になっています。

## 10. 運 転

### ① サーキットブレーカ

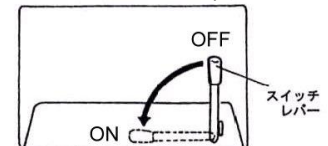
本製品にはモータ保護用のサーキットブレーカが装備されています。運転スイッチを入れる前に、サーキットブレーカのリセットボタンが飛び出していないか確認します。リセットボタンが飛び出している場合は、モータが過負荷状態になっているので、その原因を除去した後に、リセットボタンを押し込んでください。



スイッチボックスの運転スイッチ

### ② 運転スイッチ

スイッチレバーをONの位置にすると運転します。但し、タンク圧力が 0.6MPa 以上では自動始動しません。



### ③ 始 動

スイッチをONにします。モータが始動し、空気がタンク内に溜まります。圧力 0.8MPa で圧力スイッチが作動し、モータが停止します。この間スイッチを切って、途中で止めたりしないでください。吐出口に取付けたエアカップラに別売のエアホースカップラ オス側(1/4in)を押し込みます。抜く際は、逆の手順で外してください。

### ④ 圧力スイッチ

本機のタンク内圧力が 0.8MPa になると、自動的に圧力スイッチが作動してモータは停止し、タンク内圧力が 0.6MPa まで下がるとモータは自動始動します。

## 11. 保守と点検



### ① エアークリッター

エアークリッターは、頻りに清掃を行ってください。清掃以外に年一回を目安として定期的に交換をしてください。また、汚れがひどい場合は、本機機能を低下させないためにも早めに交換してください。

※補修部品(別売)は弊社に用意してあります。販売店にお問い合わせください。

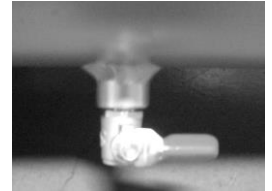
### ② ドレンコック

右の写真のドレンコックからエア抜き・水抜きを行ってください。

その際一気にドレンコックを開きますと圧縮された空気とサビが混じった水が飛び散り、失明や聴覚を痛める恐れがあり、更には周囲を汚しますので注意してください。

トレイなどを置いてドレンコックを少しずつ開いて排出してください。

ドレンコック



### ③ エア抜き・水抜き作業

エアを圧縮すると必ず水が発生し、タンク内下部に溜まります。本機タンク内のサビ防止のため、本機を使用後はドレンコックを開いてエアタンク内のエア抜き・水抜きを行ってください。

### ④ オイル交換

・オイル交換は、通常 200 時間の運転、または 3 ヶ月使用毎に新しいオイルに交換してください。

・オイルの排出は、オイル排出口のボルトをスパナでゆるめ行ってください。

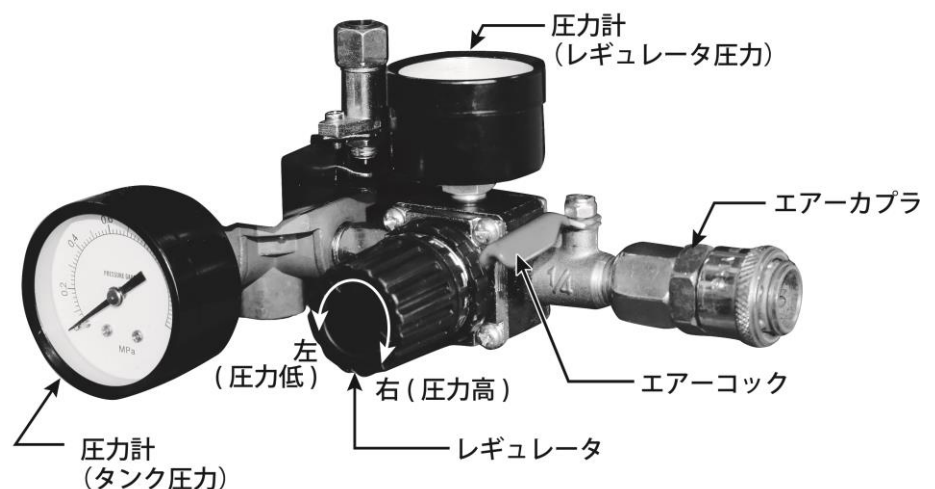
・オイル注入は、オイル注入口のディフューザ(内圧抜きキャップ)を外し、こぼれないよう注意して注入してください。注入量はオイルレベルゲージで確認してください。



### ⑤ レギュレータ

レギュレータは使用する空気圧を調整しますが、タンク圧より高く調整はできません。必ずタンク圧以下で調整願います。

- ・レギュレータを右に回す…吐出圧力が高くなる。
- ・レギュレータを左に回す…吐出圧力が低くなる。



## 12. トラブルの原因と対策



故障の種類	原因	対策
モータまたは圧縮機が回転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードが外れている</li> <li>・延長コードが長すぎる</li> <li>・タンク内圧力計が約 0.6MPa 以上になっている</li> <li>・サーキットブレーカが動作している</li> <li>・モータの故障</li> <li>・圧カスイッチの故障</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に接続する</li> <li>・規定長さ容量のものを使用</li> <li>・ドレンコックより、タンク内のエアを抜き、再起動させる</li> <li>・サーキットブレーカ動作原因を除去した後にリセットボタンを押し込む</li> <li>・モータの点検・交換</li> <li>・圧カスイッチの交換</li> </ul>
圧力が上昇しないまたは、上昇が遅い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレンコックが開いている</li> <li>・圧力計の故障</li> <li>・回転数の低下</li> <li>・空気漏れ</li> <li>・安全弁の作動不良</li> <li>・エアフィルター(消音器)の汚れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレンコックを閉じる</li> <li>・圧力計の交換</li> <li>・電源電圧の確認</li> <li>・漏れ箇所の修理</li> <li>・安全弁の調整または修理</li> <li>・フィルターエレメントの清掃・交換</li> </ul>
異常音・振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置不良</li> <li>・締め付け部のゆるみ</li> <li>・本体各部の摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置(場所)の変更</li> <li>・増し締めをする</li> <li>・消耗部品の交換</li> </ul>

その他、原因不明の場合はお買求めの販売店にご相談ください。

### ●メンテナンス記録

検査項目	検査日付		年		年		年		年	
	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日
本体損傷の有無										
安全弁										
水抜き										
フィルター清掃・交換										
オイル補充・交換										
異常音・振動・その他										
検査担当者										